

暮らしのニーズに密着 女性の働きやすい 環境整備

富山県生活協同組合
理事長

松浦均氏



生協は食品などの共同購入をされています。概要を教えてください。

生協は組合員による「出資」「利用」「運営」を基本にした助け合いの組織です。経営の中心になっているのが、食品などを共同購入して宅配する事業で、富山県生協の事業高全体の96%を占めています。その他に共済事業と、福祉事業としてデイサービスやショートステイ、訪問介護の拠点を県内に4カ所運営しています。

1959年に「富山県労働者消費生活協同組合」として設立され、当初は労働組合の福利厚生を目的とした職域生協でした。労組が中心なので出資金は集まりますが、男性中心の組織下で活発な利用・運営がされませんでした。

利便性を高めようと1963年から店舗事業を始め、一時は県内に6店舗を構えましたが、組合員との連携が弱く、生協らしさを打ち出せないままスーパーマーケットと

の競争になり、2003年までに全店舗を閉鎖しています。

厳しい時代があったのですね。

生協本来の「出資」「利用」「運営」のためには主婦が主役でなければならないと、主婦を中心とした地域生協へと変革してきました。1988年に「富山県生活協同組合」と改称し、ガバナンスも組合員が主役となるように、それまでの労働組合からの人選だけでなく、地域組合員から6人の理事を選びました。その比率は段々増え、さらに地域社会から学識者や企業経営者にも加わってもらい、現在は25人の理事のうち12人が地域組合員です。

－安心・安全体制の構築－

食の安心・安全に対する消費者の関心が高くなっています。どのような取り組みをされていますか。

もともと組合員さんは食に関心のある人が多く、富山県生協でも安全・安心については以前からこだわり、添加物などについて科学的な見地から基準を示して食品を扱ってきました。

2006年には、生産者や食品メーカーが安心して生産・製造できるように、業者会、組合員、生協が出資して「食の安心研究所」を設立しました。安心・安全な商品づくりを行う製造プロセスを確立するためのお手伝いを目的とし、学習会や設備の支援を行っています。

9年前に中国で製造した冷凍餃子に農薬が混入する事件が起きましたが、これをきっかけに2008年、食品安全マネジメントシステムのISO22000を取得しました。生産から物流まで、安心を担保できる仕組みを確立しました。

こうした取り組みなどが評価され、組合員数、事業高とも、毎年増加しています。

福祉事業もされています。

店舗事業から撤退した頃、介護保険制度が整備されました。福祉事業は生協本来の主旨である「助け合い」の姿と合致すると考え、2000年にコープ月岡店の建物を改装し、デイサービスセンター「まる～な」を開いたのが始まりです。

今年が高岡市に新たな福祉施設を開設予定です。利用者の「通い」や「訪問」「泊り」を中心とした「小規模多機能型居宅介護」の施設ですが、新たな機能の併設を考えています。宅配事業の受け取り場所として活用するほか、地域の人が集まれるコミュニティスペースを設け、地域住民の「つどいの館」として活用してもらいたいと考えています。

－支え合う地域づくり－

組合員以外の地域住民にも開放するのですか。

そうです。そもそも協同組合は組合員の自治組織であるのですが、「コミュニティへの関与」も協同組合原則にうたわれています。

県生協の目指す姿「2020年ビジョン」を2012年に策定し、「県生協はつなぐ・結ぶ・支えあう地域を築きます」をトータルビジョンとしました。組合員への価値の向上や経営基盤の強化に加えて、地域社会への貢献を掲げたのです。生協の精神は地域社会でも発揮できるものと考えます。そのチャレ

ンジの一つが高岡に開設する事業所です。

将来的には店舗事業も再開し、食を通じた生協らしい地域貢献をしたいとも考えています。事業を多角化するなかで、心がけていらっしゃることは何ですか。

宅配事業は主に共同購入する組合員さんのサポーターですが、福祉事業はそうはいかない。要介護者に寄り添って利用者本位に、一人一人のニーズに合ったサービスを提供しなくてはなりません。

それは宅配事業でも言えることで、高齢の組合員さんだと、玄関先でなく冷蔵庫まで運ぶ補助をすとか、注文書の記入を補助するとか考えられます。組合員さんの喜びが自分の喜びになるように、それぞれの生活に寄り添う気持ちを持って各事業に当たっています。

3年前からは夕食の宅配を開始し、毎日800食を配達していますし、昨年からは介護療養食も始めました。子法人で「くらしのサービス事業」として、灯油の宅配をはじめとする生活面での色々なお手伝いも展開しています。

長年生協に携わられて、組合員(消費者)の意識に変化はありますか。

現代は色々なモノが簡単に手に入ります。消費者はモノだけでなく、モノを通じて得られる感情や幸せを求めています。食の安心・安全は大前提として、そこに含まれるコトも届けるように気配りし

なくてはいけないと感じています。

また、高齢化が進む中で、配達担当者は地域を見守ることができます。県内の6市4町と「見守り協定」を結んでいます。宅配で回る中で、家庭や地域の異変を行政に知らせるものです。

2007年に県の「第1回女性が輝く元気企業とやま賞」を受賞されています。

組合員の多くが女性なので、女性目線で考えないとアンマッチになります。顧客本位、現場の力を生かすことを考えたら、必然的に女性が働きやすい職場づくりとなり、パートから正職員への道はできてきました。幹部へは、これまで課長に何人か登用しましたが、現在、部長職に一人活躍してもらっています。子育てをしながらパートで入った女性です。ぜひ彼女の後に続く幹部を育てたいです。

座右の銘を教えてください。

「一人は万人のために、万人は一人のために」。生協の創始者、賀川豊彦先生が掲げた生協の精神です。必ずしも自分に返ってくるかどうかは分からないけれど、他者のためになるという気持ち(贈与の心)を常に起こしていかなくはなりません。

法人概要

富山県生活協同組合

設立：1959(昭和34)年4月
所在地：富山市金屋555
組合員数：72,870人
出資金：35億327万円
総事業高：75億8,448万円
職員数：243名
事業内容：富山県内全域で食料品・日用雑貨等の生活必需品を宅配で供給する商品事業、共済事業、福祉事業等
子法人：(有)けんせいきょうサービス
URL：http://www.toyamaken-coop.or.jp

略歴

1950(昭和25)年8月生まれ。立山町出身。1974年前身の富山県労働者消費生活協同組合に入職。コープ店長、店舗部長などを経て、98年常勤理事、2000年専務理事、06年から代表理事・理事長。

